

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事務事業名	清掃一般管理事業	部局名	環境部
		課(室)名	環境第1課

【基本情報】

基本目標	03 うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政策	02 資源の循環と環境美化を推進する
施策	01 ごみを減らし、リサイクルを進める
事業実施期間	～ 永年
事業区分	①一般事務経費事業
地区別	市内全域
関連根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、加古川市廃棄物の処理及び清掃に関する条例

【事業概要】

現状と課題	ごみ減量化と、ごみ区分の最適化による資源化率の向上により、今後さらにごみ排出量の削減に努める必要がある。そのため、ごみ処理に関する各種の情報を収集し、調査研究を進める必要性が高まっている。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	清掃業務に関する一般管理運営を行い、ごみの適正処理の推進を図る。
対象 ※誰、何に対して	市民
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	清掃業務に関する一般的管理運営を行う。

【コスト】

	平成26年度(決算見込)
事業費合計	1,692 千円
財源内訳	国庫支出金 千円
	県支出金 千円
	地方債 千円
	その他特財 千円
	一般財源 1,692 千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	04 衛生費
項	02 清掃費
目	01 清掃総務費
細目	005 清掃一般管理事業

【コスト推移】

	平成26年度(決算見込)	平成25年度(決算)	平成24年度(決算)
事業費合計	1,692 千円	2,235 千円	1,898 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	☐ 拡充 ☒ 維持 ☐ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	ごみ処理業務に関して、適正な処理と更なる減量化が必要な状況であり、各種情報を入手するため各協議会に参加する必要がある。また、事務に係る庶務業務も含まれていることなど、業務を維持して実施する必要がある。

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事 務 事 業 名	清掃一般管理事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	環境第1課

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対 象 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度

【事業実績】

活 動 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
活 動 指 標 分 析 結 果				

【事業成果】

成 果 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目 標 値
成 果 指 標 分 析 結 果						

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事務事業名	塵芥収集管理事業	部局名	環境部
		課(室)名	環境第1課

【基本情報】

基本目標	03 うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政策	02 資源の循環と環境美化を推進する
施策	01 ごみを減らし、リサイクルを進める
事業実施期間	～ 永年
事業区分	①一般事務経費事業
地区別	市内全域
関連根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、加古川市廃棄物の処理及び清掃に関する条例

【事業概要】

現状と課題	ごみ減量化と、ごみ区分の最適化による資源化率の向上により、今後さらにごみ排出量の削減に努める必要がある。そのため、適正な収集を実施するための管理を行う必要性が高まっている。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	塵芥処理に関する一般的管理運営を行い、廃棄物の適正処理の推進を図る。
対象 ※誰、何に対して	市内全域
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	塵芥処理に関する一般的管理運営を行う。廃棄物の適正処理の推進を図る。

【コスト】

	平成26年度(決算見込)
事業費合計	326 千円
財源内訳	国庫支出金 千円
	県支出金 千円
	地方債 千円
	その他特財 千円
	一般財源 326 千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	04 衛生費
項	02 清掃費
目	02 塵芥処理費
細目	005 塵芥収集管理事業

【コスト推移】

	平成26年度(決算見込)	平成25年度(決算)	平成24年度(決算)
事業費合計	326 千円	342 千円	403 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	☐ 拡充 ☒ 維持 ☐ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	塵芥処理に関する一般的管理運営を行い、廃棄物の適正処理を図ることは、市の施策として必要と考える。

事 務 事 業 名	塵芥収集管理事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	環境第1課

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対 象 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度

【事業実績】

活 動 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
活 動 指 標 分 析 結 果				

【事業成果】

成 果 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目 標 値
成 果 指 標 分 析 結 果						

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事務事業名	環境美化センター維持補修事業	部局名	環境部
		課（室）名	環境第1課

【基本情報】

基本目標	03うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政策	02資源の循環と環境美化を推進する
施策	01ごみを減らし、リサイクルを進める
事業実施期間	～ 永年
事業区分	②施設維持補修事業
地区別	市内全域
関連根拠法令等	

【事業概要】

現状と課題	施設の老朽化が進んでいる。
目的 ※対象（誰・何）を どのような状態 にしたいのか	ごみ収集及びし尿収集業務の適切な運営を実施するために、環境美化センター施設の維持を実施する。
対象 ※誰、何に対して	環境美化センター
事業内容 ※目的達成のため の手段・手法	環境美化センター施設の維持及び管理業務を実施する。

【コスト】

	平成26年度（決算見込）
事業費合計	32,444 千円
財源内訳	国庫支出金 千円
	県支出金 千円
	地方債 千円
	その他特財 238 千円
	一般財源 32,206 千円

【会計】

会計	01一般会計
款	04衛生費
項	02清掃費
目	01清掃総務費
細目	020環境美化センター維持補修事業

【コスト推移】

	平成26年度（決算見込）	平成25年度（決算）	平成24年度（決算）
事業費合計	32,444 千円	31,322 千円	32,114 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性 ・効率性の視点 をもとに総合的 に判断した評価	☐ 拡充 ☒ 維持 ☐ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	環境美化センターの維持管理に関し、委託業務も含めて適切に実施されている。

事 務 事 業 名	環境美化センター維持補修事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	環境第1課

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対 象 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度

【事業実績】

活 動 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
活 動 指 標 分 析 結 果				

【事業成果】

成 果 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目 標 値
成 果 指 標 分 析 結 果						

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事 務 事 業 名	塵芥収集事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	環境第1課

【基本情報】

基 本 目 標	03 うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政 策	02 資源の循環と環境美化を推進する
施 策	01 ごみを減らし、リサイクルを進める
事業実施期間	～ 永年
事業区分	⑤市施策事業（経常）
地 区 別	市内全域
関連根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、加古川市廃棄物の処理及び清掃に関する条例

【事業概要】

現 状 と 課 題	人口のピーク時と比較してごみ排出量は減少傾向にあるが、今後も、可燃ごみの減量化、ごみ区分の最適化による資源化率の向上により、ごみ排出量の削減に努める必要がある。
目 的 ※対象（誰・何）を どのような状態 にしたいのか	市内から排出され収集運搬された可燃ごみ等を適正に収集、運搬することにより良好な住環境の保持を図る。
対 象 ※誰、何に対して	世帯（一般家庭）
事 業 内 容 ※目的達成のため の手段・手法	一般家庭から排出されるごみを収集する。

【コスト】

	平成26年度（決算見込）
事業費合計	206,965 千円
財 源 内 訳	国庫支出金 千円
	県支出金 千円
	地方債 千円
	その他特財 千円
	一般財源 206,965 千円

【会計】

会 計	01 一般会計
款	04 衛生費
項	02 清掃費
目	02 塵芥処理費
細 目	010 塵芥収集事業

【コスト推移】

	平成26年度（決算見込）	平成25年度（決算）	平成24年度（決算）
事業費合計	206,965 千円	201,290 千円	229,752 千円

【総合評価】

総 合 評 価 ※妥当性・有効性・ 効率性の視点 をもとに総合的 に判断した評価	☐ 拡充 ☐ 維持 ☐ 縮小 ☒ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	決められた場所、時間、ごみ出しのルールを守って排出されたごみについては、当日中に全量収集しており、安全で衛生的な町づくりに寄与している。今後、市直営／委託比率の見直しや、ごみ発生抑制や分別指導によるごみ減量化により、効率的なごみ収集・運搬を行う余地がある。既存の委託地域については5年毎に入札を実施し、経費の節減を図ることができている。

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事務事業名	塵芥収集事業	部局名	環境部
		課(室)名	環境第1課

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対象指標名	単位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
加古川市人口（10／1付推計人口）	人	267,043	268,053	268,390
世帯数	世帯	103,733	102,989	102,138

【事業実績】

活動指標名	単位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
収集人口	人	267,043	268,053	268,390
活動指標分析結果	人口増加のピーク期を過ぎ、前年度に比べて緩やかに人口の減少化が見られた。一方で世帯数は若干増加していることから、いわゆる核家族化が進んでいることが伺える。			

【事業成果】

成果指標名	単位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目標値
家庭系可燃ごみ収集量	t	49,247	49,140	49,952	平成34年度	37,949
市民1人1日当りの可燃ごみ排出量	g	505	503	511	平成34年度	394
成果指標分析結果	各ごみ減量施策の効果、人口減の影響もあり、家庭系可燃ごみ収集量及び市民1人1日あたりの収集量は減少した。しかしながら、34年度目標値にあるごみ20%減量に向け、さらなるごみ減量化を進める必要がある。					

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事 務 事 業 名	集団回収奨励事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	環境第1課

【基本情報】

基 本 目 標	0 3 うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政 策	0 2 資源の循環と環境美化を推進する
施 策	0 1 ごみを減らし、リサイクルを進める
事業実施期間	昭和55年度 ～ 永年
事業区分	⑤市施策事業（経常）
地区別	市内全域
関連根拠法令等	加古川市資源ごみ集団回収運動奨励金交付要綱

【事業概要】

現 状 と 課 題	市内の営利を目的としない各団体が資源ごみの集団回収運動を行っている。ごみ減量のため、可燃ごみの中に多く含まれている紙類・布類の回収量を増加させる必要がある。
目 的 ※対象（誰・何）を どのような状態 にしたいのか	資源回収意欲を高め、ごみ減量及び資源の有効活用を図る。
対 象 ※誰、何に対して	集団回収運動を行う市内各団体
事 業 内 容 ※目的達成のため の手段・手法	集団回収された資源ごみ（紙類・衣類）について、回収量1 k g あたり7円の奨励金を交付する。

【コスト】

	平成26年度（決算見込）
事業費合計	42,005 千円
財 源 内 訳	国庫支出金 千円
	県支出金 千円
	地方債 千円
	その他特財 千円
	一般財源 42,005 千円

【会計】

会 計	0 1 一般会計
款	0 4 衛生費
項	0 2 清掃費
目	0 1 清掃総務費
細 目	0 1 5 ごみ減量化推進事業

【コスト推移】

	平成26年度（決算見込）	平成25年度（決算）	平成24年度（決算）
事業費合計	42,005 千円	44,480 千円	51,178 千円

【総合評価】

総 合 評 価 ※妥当性・有効性 ・効率性の視点 をもとに総合的 に判断した評価	☐ 拡充 ☒ 維持 ☐ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	ごみ減量を進めるために回収量を増加させる工夫が必要である。

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事務事業名	集団回収奨励事業	部局名	環境部
		課(室)名	環境第1課

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対象指標名	単位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
活動団体数	団体	339	339	347

【事業実績】

活動指標名	単位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
集団回収奨励金申請件数	件	1,090	1,079	1,102
集団回収回数	回	2,559	2,542	2,623
活動指標分析結果	資源ごみの回収量が減少している。			

【事業成果】

成果指標名	単位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目標値
資源ごみ回収量	キログラム	5,095,098	6,348,822	7,305,780	平成30年度	6,690,000
成果指標分析結果	広報等でPRをしたが、資源ごみ回収量は前年度より減少し、目標値には達していない。少子高齢化による団体活動の低下並びに市内各所に設置されている回収ボックスが大きく関わっていると考えられる。					

加古川市事務事業評価シート（平成26年度実施事業）

事務事業名	ごみ減量化啓発事業	部局名	環境部
		課（室）名	環境第1課

【基本情報】

基本目標	03 うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政策	02 資源の循環と環境美化を推進する
施策	01 ごみを減らし、リサイクルを進める
事業実施期間	～ 永年
事業区分	⑤市施策事業（経常）
地区別	市内全域
関連根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、加古川市廃棄物の処理及び清掃に関する条例

【事業概要】

現状と課題	高度成長時代のごみ排出量の増大期を経て、最近の3Rの推進の効果もあり、リサイクルに対する意識は高くなったが、リデュースの取組みを高める必要がある。
目的 ※対象（誰・何）をどのような状態にしたいのか	市民からごみ減量に対する意識を持ってもらい、家庭系ごみの減量化を促進する。
対象 ※誰、何に対して	市内小学校・中学校に通う生徒、世帯
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	●小・中学生への3Rに関する標語・ポスターの作成機会の創出●不用品交換情報誌を発行●レジ袋削減の啓発

【コスト】

	平成26年度（決算見込）
事業費合計	69 千円
財源内訳	国庫支出金 千円
	県支出金 千円
	地方債 千円
	その他特財 千円
	一般財源 69 千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	04 衛生費
項	02 清掃費
目	01 清掃総務費
細目	015 ごみ減量化推進事業

【コスト推移】

	平成26年度（決算見込）	平成25年度（決算）	平成24年度（決算）
事業費合計	69 千円	54 千円	160 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	■拡充 □維持 □縮小 □改善 □統合 □廃止 □休止 □完了
	児童・生徒が、3Rに関する標語やポスター作成することにより、減量意識の普及・向上につながっている。また、不用品の再利用制度も、市民の意識向上が高まると共にごみ減量に繋がるものと考え。減量啓発効果の高いレジ袋削減（マイバック持参）運動については、協力店舗を増やす新たな施策の導入が必要である。しかし、まだ十分な効果が出ていないため目標達成のためにさらなる施策が必要と考える。

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事務事業名	ごみ減量化啓発事業	部局名	環境部
		課(室)名	環境第1課

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対象指標名	単位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
市内の学校園に通う幼児・児童・生徒数	人	215	214	210
世帯数	世帯	103,899	102,989	102,138

【事業実績】

活動指標名	単位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
ポスターコンクール・標語応募件数	件	215	214	210
バトン発行回数	回	12	12	12
活動指標分析結果	市内小・中学校に呼びかけ3R促進のポスター・標語の作品を提出してもらった。リサイクル情報誌ぼとんは毎月発行し、市民センター等で掲出し情報提供を行った。			

【事業成果】

成果指標名	単位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目標値
バトン成立件数	件	13	15	7	平成30年度	40
家庭系可燃ごみ量	t	50,306	50,016	50,736	平成34年度	40,059
成果指標分析結果	低年齢期からの3R促進への意識付けができポスター・標語に215件の応募があった。また、リサイクル情報誌ぼとんによる交換成立は13件となる。家庭系可燃ごみ収集量は前年より290トン増加している。					

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事 務 事 業 名	分別収集啓発事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	環境第1課

【基本情報】

基 本 目 標	03うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政 策	02資源の循環と環境美化を推進する
施 策	01ごみを減らし、リサイクルを進める
事業実施期間	～ 永年
事業区分	⑤市施策事業（経常）
地 区 別	市内全域
関連根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、加古川市廃棄物の処理及び清掃に関する条例

【事業概要】

現 状 と 課 題	高度成長時代のごみ排出量の増大期を経て、最近の3Rの推進の効果もあり、ごみの細分化が進み、ごみ排出についてのルールがきめ細やかになった反面、そのルールの理解が難しくなった面がある。
目 的 ※対象（誰・何）を どのような状態 にしたいのか	ごみ収集日程表の作成・配布、ごみ分別指導業務の委託等により、ごみ分別の指導・啓発を行う。
対 象 ※誰、何に対して	市内全域
事 業 内 容 ※目的達成のため の手段・手法	ごみ収集日程表の作成・配布、ごみ分別指導業務の委託を行う。

【コスト】

	平成26年度（決算見込）
事業費合計	18,882 千円
財 源 内 訳	国庫支出金 千円
	県支出金 千円
	地方債 千円
	その他特財 千円
	一般財源 18,882 千円

【会計】

会 計	01一般会計
款	04衛生費
項	02清掃費
目	02塵芥処理費
細 目	005塵芥収集管理事業

【コスト推移】

	平成26年度（決算見込）	平成25年度（決算）	平成24年度（決算）
事業費合計	18,882 千円	18,983 千円	19,077 千円

【総合評価】

総 合 評 価 ※妥当性・有効性・ 効率性の視点をもとに総合的に 判断した評価	☒ 拡充 ☐ 維持 ☐ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	市民生活に密着したごみ排出について、排出方法及び収集日程等のルールを周知し、適正にごみを排出するよう指導することにより、安全で衛生的な町づくりに寄与している。持続可能な循環型社会の実現に向け、環境負荷を低減し、さらにごみ減量化と資源化を推進するためには、本事業の継続が必要と考える。

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事務事業名	分別収集啓発事業	部局名	環境部
		課(室)名	環境第1課

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対象指標名	単位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
加古川市人口（10／1付推計人口）	人	267,043	268,053	268,390
加古川市世帯数	世帯	103,733	102,989	102,138

【事業実績】

活動指標名	単位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
収集世帯数	世帯	103,733	102,989	102,138
ごみ日程表配布数	枚	120,000	130,000	130,000
保健衛生推進委員研修会開催回数	回	25	25	26
活動指標分析結果	ごみ日程表（点字版含む）を全戸配布したことにより、すべての市民に収集日程及び分別ルール周知を図った。保衛協研修会の開催については、市並びに各地区での研修会を実施することにより、ごみ減量・分別による資源化の推進について意識が高まったと考えられる。			

【事業成果】

成果指標名	単位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目標値
資源ごみ収集量	t	3,589	3,852	3,857	平成34年度	3,033
資源化率（家庭系ごみに占める資源ごみの割合）	%	6.2	6.6	6.5	平成34年度	7
成果指標分析結果	前年度と比較して資源ごみ収集量が漸減しており、今後も市民啓発及び資源物持ち去りパトロールを継続して資源化率の向上を進める必要がある。今後は可燃ごみの減量化を推進する必要がある。					

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事 務 事 業 名	資源ごみ収集事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	環境第1課

【基本情報】

基 本 目 標	03うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政 策	02資源の循環と環境美化を推進する
施 策	01ごみを減らし、リサイクルを進める
事業実施期間	～ 永年
事業区分	⑤市施策事業（経常）
地 区 別	市内全域
関連根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、容器包装リサイクル法、小型家電リサイクル法

【事業概要】

現 状 と 課 題	ごみ区分の最適化により資源化率を向上させ、今後さらに可燃ごみをはじめとするごみ排出量の削減に努める必要がある。
目 的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	ごみを燃やすことや最終処分場の埋め立てを避け、環境への負担を減らす。
対 象 ※誰、何に対して	世帯（一般家庭）
事 業 内 容 ※目的達成のための手段・手法	月1回各資源ごみを収集し、中間処理を経て再生事業者等に売却または引き渡す。

【コスト】

	平成26年度（決算見込）
事業費合計	75,882 千円
財 源 内 訳	国庫支出金 千円
	県支出金 千円
	地方債 千円
	その他特財 千円
	一般財源 75,882 千円

【会計】

会 計	01一般会計
款	04衛生費
項	02清掃費
目	02塵芥処理費
細 目	015資源ごみ収集事業

【コスト推移】

	平成26年度（決算見込）	平成25年度（決算）	平成24年度（決算）
事業費合計	75,882 千円	72,422 千円	76,031 千円

【総合評価】

総 合 評 価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	☐ 拡充 ☒ 維持 ☐ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	決められた場所、時間、ごみ出しのルールを守って排出されたごみについては、当日中に全量収集しており、安全で衛生的な町づくりに寄与している。今後、ごみ発生抑制や分別指導によるごみ減量化により、効率的なごみ収集・運搬を行う余地がある。資源ごみ収集はすべて委託しており、適切な時期に入札を実施し、経費の節減を図ることができている。

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事 務 事 業 名	資源ごみ収集事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	環境第1課

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対 象 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
加古川市人口（10／1付推計人口）	人	267,043	268,053	268,390
世帯数	世帯	103,733	102,989	102,138

【事業実績】

活 動 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
収集人口	人	267,043	268,053	268,390
活 動 指 標 分 析 結 果	人口増加のピーク期を過ぎ、前年度に比べて緩やかに人口の減少化が見られた。一方で世帯数は若干増加していることから、いわゆる核家族化が進んでいることが伺える。			

【事業成果】

成 果 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目 標 値
資源ごみ収集量	t	3,589	3,852	3,857	平成34年度	3,033
資源化率	%	16.5	11.3	11.89	平成27年度	25
資源化率（家庭系ごみに占める資源ごみの割合）	%	6.2	6.6	6.5	平成34年度	7
成 果 指 標 分 析 結 果	前年度と比較して資源ごみ収集量が漸減しており、今後とも資源ごみ夜間持ち去りパトロールを実施するなどして資源化率の向上を図る必要がある。					

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事務事業名	ごみステーション整備事業	部局名	環境部
		課(室)名	環境第1課

【基本情報】

基本目標	03 うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政策	02 資源の循環と環境美化を推進する
施策	01 ごみを減らし、リサイクルを進める
事業実施期間	～ 永年
事業区分	⑤市施策事業(経常)
地区別	市内全域
関連根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、加古川市廃棄物の処理及び清掃に関する条例

【事業概要】

現状と課題	近年、開発行為を行う場合はごみステーションの設置義務等を求めているが、いわゆるミニ開発を続けた地域では世帯数が多いにも係らず、ごみステーションが面積、箇所数ともに不足している課題がある。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	適正なごみステーションの整備を行うことにより、地域の環境美化育成を図る。
対象 ※誰、何に対して	町内会
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	町内会がごみステーションを設置、整備する場合に要する費用の補助を行う。またごみステーションに分別指導看板を設置する。

【コスト】

	平成26年度(決算見込)
事業費合計	899 千円
財源内訳	国庫支出金 千円
	県支出金 千円
	地方債 千円
	その他特財 千円
	一般財源 899 千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	04 衛生費
項	02 清掃費
目	02 塵芥処理費
細目	005 塵芥収集管理事業

【コスト推移】

	平成26年度(決算見込)	平成25年度(決算)	平成24年度(決算)
事業費合計	899 千円	1,712 千円	1,359 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	☐ 拡充 ☒ 維持 ☐ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	ごみ収集が円滑に行われるとともに、地域の生活環境及び公衆衛生が維持される。またごみステーション整備補助に関しては、受益者に応分の負担がある事業のため、費用対効果が高い事業であると考えられる。市内にあるステーション全てを一度に整備することは困難なため、計画的に補助整備を行うことが必要である。

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事務事業名	ごみステーション整備事業	部局名	環境部
		課(室)名	環境第1課

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対象指標名	単位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
単位町内会・自治会数	町内会・自治会	321	321	321

【事業実績】

活動指標名	単位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
ごみステーション整備箇所数	箇所	13	25	21
分別看板配布枚数	枚	50	50	40
活動指標分析結果	26年度は整備件数及び補助金額が低調であり、また収集効率を高める効果があるごみステーションの統合については実績がなかった。看板については新規設置や汚損による交換が主である。			

【事業成果】

成果指標名	単位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目標値
ごみステーション数	箇所	3,432	3,399	3,362	平成27年度	3,400
成果指標分析結果	世帯数が漸増し、市域全域で宅地のスプロール化が進むなか、ごみステーション数は33件増加した。収集作業の効率化、安全性の確保を図るためには、適正なごみステーションの設置、整備が求められる。					

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事 務 事 業 名	産業廃棄物処理事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	環境第1課

【基本情報】

基 本 目 標	03 うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政 策	02 資源の循環と環境美化を推進する
施 策	01 ごみを減らし、リサイクルを進める
事業実施期間	平成24年度 ～ 永年
事業区分	⑥市施策事業（臨時）
地区別	市内全域
関連根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、循環型社会形成推進基本法、廃棄物処理法

【事業概要】

現 状 と 課 題	事業系の金属類等は、定められた処理が義務付けられており、適切に処理する必要がある。環境負荷の少ない循環型社会の形成に寄与するため、廃棄物の分別はもちろん、更なる減量が求められている。
目 的 ※対象（誰・何）を どのような状態 にしたいのか	加古川市が事業者として排出する産業廃棄物を適正に処理することにより、環境負荷の少ない循環型社会の形成に寄与する。
対 象 ※誰、何に対して	市域全体（本庁舎及び各市施設）
事 業 内 容 ※目的達成のため の手段・手法	産業廃棄物の収集、運搬及び処理を行う。

【コスト】

	平成26年度（決算見込）
事業費合計	2,152 千円
財 源 内 訳	国庫支出金 千円
	県支出金 千円
	地方債 千円
	その他特財 千円
	一般財源 2,152 千円

【会計】

会 計	01 一般会計
款	04 衛生費
項	02 清掃費
目	01 清掃総務費
細 目	030 産業廃棄物処理事業

【コスト推移】

	平成26年度（決算見込）	平成25年度（決算）	平成24年度（決算）
事業費合計	2,152 千円	2,098 千円	1,841 千円

【総合評価】

総 合 評 価 ※妥当性・有効性 ・効率性の視点 をもとに総合的 に判断した評価	☐ 拡充 ☒ 維持 ☐ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	資源ごみの分別を徹底しごみ減量を図り、市が排出する廃棄物の減量を進める必要がある。また、小型家電や電源コード類を別集積することにより売却が可能か検討する余地がある。

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事務事業名	産業廃棄物処理事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	環境第1課

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対 象 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
本庁舎及び各施設	箇所	160	160	162

【事業実績】

活 動 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
混合廃棄物持込量	m ³	184	136	128
廃蛍光灯持込量	k g	1, 220	2, 110	2, 450
活 動 指 標 分 析 結 果	24年度から実施した事業であり、処理量データが少ないためトレンド傾向の分析が難しいが、現在の処理量を基準に次年度以降の推移を注視したいと考える。			

【事業成果】

成 果 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目 標 値
混合廃棄物処理量	m ³	184	136	128	平成27年度	120
廃蛍光灯処理量	k g	1, 220	2, 110	2, 450	平成27年度	2, 400
成 果 指 標 分 析 結 果	廃蛍光灯を含む混合廃棄物全般を収集、運搬及び処理ができる処理業者と委託契約することにより、持ち込まれた産廃の全量を適正に処理する必要がある。					

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事 務 事 業 名	塵芥収集車両購入事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	環境第1課

【基本情報】

基 本 目 標	03うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政 策	02資源の循環と環境美化を推進する
施 策	01ごみを減らし、リサイクルを進める
事業実施期間	～ 永年
事業区分	⑦投資事業
地 区 別	市内全域
関連根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、加古川市廃棄物の処理及び清掃に関する条例

【事業概要】

現 状 と 課 題	人口増加のピーク期を過ぎ、ごみ収集量も緩やかな減少傾向にある。しかしながら、核家族化の進行に伴う世帯数の増加、ごみ分別の多種化により収集作業を取巻く環境は軽減されていない。限られた時間の中でより安全に、より迅速に収集する責務を果たすため、車両の更新は必須である。
目 的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	老朽化した塵芥収集車を更新することにより、修繕費用を節約し、安全で効率的なごみ収集を行う。
対 象 ※誰、何に対して	塵芥収集車両
事 業 内 容 ※目的達成のための手段・手法	購入後10年以上経過した塵芥収集車両の計画的な更新を行う。

【コスト】

	平成26年度（決算見込）
事業費合計	6,080 千円
財 源 内 訳	国庫支出金 千円
	県支出金 千円
	地方債 4,500 千円
	その他特財 千円
	一般財源 1,580 千円

【会計】

会 計	01一般会計
款	04衛生費
項	02清掃費
目	02塵芥処理費
細 目	020塵芥収集車両購入事業

【コスト推移】

	平成26年度（決算見込）	平成25年度（決算）	平成24年度（決算）
事業費合計	6,080 千円	11,868 千円	11,862 千円

【総合評価】

総 合 評 価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	☐ 拡充 ☒ 維持 ☐ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	購入後10年を経過している車両も多く、計画的に車両更新ができない場合、移動や収集作業中に故障するなど迅速で安全なごみ収集ができない事態が発生することが予想されるため、本事業の実施は必要と考える。

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事 務 事 業 名	塵芥収集車両購入事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	環境第1課

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対 象 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
塵芥収集車両数	台	22	22	22

【事業実績】

活 動 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
更新車両台数	台	1	2	2
活 動 指 標 分 析 結 果	経過年数及び車両の損耗の状態を勘案し、26年度は1台、27年度は2台更新することになっている。しかし、導入後10年を経過し、20万キロを超過している車両も多数あるため、来年度以降も計画的に車両を更新する必要がある。			

【事業成果】

成 果 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目 標 値
修繕発注件数	件	54	100	86	平成27年度	80
成 果 指 標 分 析 結 果	導入後10年を経過し、20万キロを超過している車両が多数あるため、大小併せた修繕件数が大幅に増加している。ゆえに購入コストと修繕コスト並びに安全性を精査し、今後の更新計画を立てる必要がある。					

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事務事業名	新クリーンセンター事業	部局名	環境部
		課(室)名	クリーンセンター

【基本情報】

基本目標	03うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政策	02資源の循環と環境美化を推進する
施策	01ごみを減らし、リサイクルを進める
事業実施期間	平成15年度～平成33年度
事業区分	①一般事務経費事業
地区別	市内全域
関連根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、大気汚染防止法、ダイオキシン類特別措置法

【事業概要】

現状と課題	C O 2 排出量削減、省エネルギーへの取組など社会的要請がある。また、焼却残渣の埋立処分量の削減や資源化率の向上も求められている。周辺環境整備事業として旧クリーンセンター跡地、いずみ荘増改築を平成25年度に行い、「いずみプラザ」として平成26年4月にオープンした。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	新クリーンセンターの円滑かつ適正な維持管理を行う。
対象 ※誰、何に対して	新クリーンセンターの業務統計、最終処分の事務(竜ヶ池・大阪湾フェニックス)、新クリーンセンター運営協議会、クリーンセンターにおける事務統計(車両管理等)等
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	年間計画に基づく適切な施設運営。焼却灰のフェニックスへの搬出、焼却飛灰のセメント原料化処理の実施。新クリーンセンター運営連絡会において、施設の運転状況、周辺環境測定結果の報告。

【コスト】

	平成26年度(決算見込)
事業費合計	14,974 千円
財源内訳	国庫支出金 千円
	県支出金 千円
	地方債 千円
	その他特財 千円
	一般財源 14,974 千円

【会計】

会計	01一般会計
款	04衛生費
項	02清掃費
目	04クリーンセンター費
細目	005新クリーンセンター事業

【コスト推移】

	平成26年度(決算見込)	平成25年度(決算)	平成24年度(決算)
事業費合計	14,974 千円	17,927 千円	15,840 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	☐ 拡充 ☒ 維持 ☐ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	一般廃棄物の処理は行政の責務であり、焼却による減容化については、その必要性から引続き取組んでゆく必要がある。

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事 務 事 業 名	新クリーンセンター事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	クリーンセンター

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、
以下の項目は空白です。

【対象】

対 象 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度

【事業実績】

活 動 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
活 動 指 標 分 析 結 果				

【事業成果】

成 果 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目 標 値
成 果 指 標 分 析 結 果						

加古川市事務事業評価シート（平成26年度実施事業）

事務事業名	竜ヶ池処理場管理運営事業	部局名	環境部
		課（室）名	クリーンセンター

【基本情報】

基本目標	03 うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政策	02 資源の循環と環境美化を推進する
施策	01 ごみを減らし、リサイクルを進める
事業実施期間	昭和55年度 ～ 平成33年度
事業区分	①一般事務経費事業
地区別	市内全域
関連根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律

【事業概要】

現状と課題	定期的なパトロールの結果悪質な不法投棄は見当たらない。
目的 ※対象（誰・何）を どのような状態 にしたいのか	埋立処分場と排水処理場を適切に管理する
対象 ※誰、何に対して	竜ヶ池処理場
事業内容 ※目的達成のため の手段・手法	竜ヶ池処理場の施設及び車両等の管理

【コスト】

	平成26年度（決算見込）
事業費合計	3,463 千円
財源内訳	国庫支出金 千円
	県支出金 千円
	地方債 千円
	その他特財 千円
	一般財源 3,463 千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	04 衛生費
項	02 清掃費
目	04 クリーンセンター費
細目	020 竜ヶ池処理場維持補修事業

【コスト推移】

	平成26年度（決算見込）	平成25年度（決算）	平成24年度（決算）
事業費合計	3,463 千円	1,840 千円	1,739 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性 ・効率性の視点 をもとに総合的 に判断した評価	☐ 拡充 ☒ 維持 ☐ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	適切に管理している

事務事業名	竜ヶ池処理場管理運営事業	部局名	環境部
		課（室）名	クリーンセンター

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対 象 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度

【事業実績】

活 動 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
活 動 指 標 分 析 結 果				

【事業成果】

成 果 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目 標 値
成 果 指 標 分 析 結 果						

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事務事業名	新クリーンセンター運営管理委託事業	部局名	環境部
		課(室)名	クリーンセンター

【基本情報】

基本目標	03 うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政策	02 資源の循環と環境美化を推進する
施策	01 ごみを減らし、リサイクルを進める
事業実施期間	平成19年度 ～ 平成33年度
事業区分	②施設維持補修事業
地区別	市内全域
関連根拠法令等	大気汚染防止法、下水道法、ダイオキシン類対策特別措置法、廃掃法等

【事業概要】

現状と課題	ごみの発生及び排出の抑制と環境負荷の低減が課題
目的 ※対象(誰・何)を どのような状態 にしたいのか	一般廃棄物の焼却処理の適正な運営管理
対象 ※誰、何に対して	焼却炉運転全般
事業内容 ※目的達成のため の手段・手法	業者(株)加古川環境サービスへの長期委託による運営管理

【コスト】

		平成26年度（決算見込）
事業費合計		1,243,076 千円
財 源 内 訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	千円
	一般財源	1,243,076 千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	04 衛生費
項	02 清掃費
目	04 クリーンセンター費
細目	010 新クリーンセンター運営管理委託事業

【コスト推移】

	平成26年度(決算見込)	平成25年度(決算)	平成24年度(決算)
事業費合計	1,243,076 千円	1,566,985 千円	1,658,369 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性 ・効率性の視点 をもとに総合的 に判断した評価	☐ 拡充 ☒ 維持 ☐ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	適正な運営管理が図られている

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事務事業名	新クリーンセンター運営管理委託事業	部局名	環境部
		課（室）名	クリーンセンター

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対 象 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度

【事業実績】

活 動 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
活 動 指 標 分 析 結 果				

【事業成果】

成 果 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目 標 値
成 果 指 標 分 析 結 果						

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事 務 事 業 名	竜ヶ池処理場維持補修事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	クリーンセンター

【基本情報】

基 本 目 標	0 3 うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政 策	0 2 資源の循環と環境美化を推進する
施 策	0 1 ごみを減らし、リサイクルを進める
事 業 実 施 期 間	昭和55年度 ～ 平成33年度
事 業 区 分	②施設維持補修事業
地 区 別	市内全域
関 連 根 拠 法 令 等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律

【事業概要】

現 状 と 課 題	浸出水の汚染状態も非常に少なくなり、処理にかかる負荷も低減している。課題としては、埋立完了までの間の老朽化した施設の管理。
目 的 ※対象(誰・何)を どのような状態 にしたいのか	周囲環境の保全及び放流基準の遵守
対 象 ※誰、何に対して	竜ヶ池処理場
事 業 内 容 ※目的達成のため の手段・手法	業務委託による竜ヶ池処理場の浸出水の適正な処理と施設の維持管理

【コスト】

	平成26年度（決算見込）
事 業 費 合 計	24,976 千円
財 源 内 訳	国 庫 支 出 金 千円
	県 支 出 金 千円
	地 方 債 千円
	そ の 他 特 財 千円
	一 般 財 源 24,976 千円

【会計】

会 計	0 1 一般会計
款	0 4 衛生費
項	0 2 清掃費
目	0 4 クリーンセンター費
細 目	0 2 0 竜ヶ池処理場維持補修事業

【コスト推移】

	平成26年度（決算見込）	平成25年度（決算）	平成24年度（決算）
事 業 費 合 計	24,976 千円	18,528 千円	16,082 千円

【総合評価】

総 合 評 価 ※妥当性・有効性 ・効率性の視点 をもとに総合的 に判断した評価	☐ 拡充 ☐ 維持 ☒ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	平成28年度以降、浸出水は下水道への直接放流となるが、引き続き浸出水基準適合の管理、施設の点検管理を行い、縮減された施設の維持管理を行う。

事 務 事 業 名	竜ヶ池処理場維持補修事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	クリーンセンター

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対 象 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度

【事業実績】

活 動 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
活 動 指 標 分 析 結 果				

【事業成果】

成 果 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目 標 値
成 果 指 標 分 析 結 果						

加古川市事務事業評価シート（平成26年度実施事業）

事 務 事 業 名	焼却残渣処理事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	クリーンセンター

【基本情報】

基 本 目 標	0 3 うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政 策	0 2 資源の循環と環境美化を推進する
施 策	0 1 ごみを減らし、リサイクルを進める
事業実施期間	昭和54年度 ～ 平成33年度
事業区分	⑤市施策事業（経常）
地区別	市内全域
関連根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、大気汚染防止法、ダイオキシン類特別措置法

【事業概要】

現 状 と 課 題	最終処分委託量の減量化（平成12年度比60%減）を求められている。
目 的 ※対象（誰・何）を どのような状態 にしたいのか	焼却残渣物の適切な処理を行う。
対 象 ※誰、何に対して	新クリーンセンターにおいてごみの焼却に伴い発生する、焼却飛灰、不燃物、スラグの処理。
事業内容 ※目的達成のため の手段・手法	新クリーンセンターにおいて発生した焼却飛灰、不燃物の収集運搬及び処分を委託処理する。焼却灰埋立処分委託、焼却灰搬送業務委託、焼却飛灰セメント原料化処理委託がある。

【コスト】

	平成26年度（決算見込）
事業費合計	374,883 千円
財 源 内 訳	国庫支出金 千円
	県支出金 千円
	地方債 千円
	その他特財 千円
	一般財源 374,883 千円

【会計】

会 計	0 1 一般会計
款	0 4 衛生費
項	0 2 清掃費
目	0 4 クリーンセンター費
細 目	0 0 5 新クリーンセンター事業

【コスト推移】

	平成26年度（決算見込）	平成25年度（決算）	平成24年度（決算）
事業費合計	374,883 千円	105,657 千円	87,889 千円

【総合評価】

総 合 評 価 ※妥当性・有効性 ・効率性の視点 をもとに総合的 に判断した評価	☐ 拡充 ☒ 維持 ☐ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	埋立処分場を将来にわたり確保するため、埋立処分量の削減が求められている。

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事務事業名	焼却残渣処理事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	クリーンセンター

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対 象 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
焼却飛灰、不燃物、スラグ、熔融飛灰	トン	4,591	11,188	10,547
資源化物（熔融飛灰）	トン	0	926	671
資源化物（焼却飛灰セメント原料化）	トン	5,732		

【事業実績】

活 動 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
焼却飛灰、不燃物、スラグ、熔融飛灰	トン	4,591	11,188	10,547
資源化物（熔融飛灰）	トン	0	926	671
資源化物（焼却飛灰セメント原料化）	トン	5,732		
活 動 指 標 分 析 結 果	平成26年度より、焼却飛灰は全量セメント原料化処理を行っており、飛灰の熔融化は、まったく行っていない。			

【事業成果】

成 果 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目 標 値
焼却飛灰、不燃物、スラグ、熔融飛灰（実績）	トン	4,591	12,008	10,547	平成27年度	5,000
資源化物（実績）	トン	0	406	671	平成27年度	0
資源化物（焼却飛灰セメント原料化）	トン	5,732			平成27年度	6,000
成 果 指 標 分 析 結 果	焼却飛灰については、すべて資源化しており、埋立処理は、不燃物、スラグのみとなっている。資源化率 55.5%					

加古川市事務事業評価シート（平成26年度実施事業）

事務事業名	大阪湾広域臨海環境整備協議会 負担金事業	部局名	環境部
		課（室）名	クリーンセンター

【基本情報】

基本目標	03 うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政策	02 資源の循環と環境美化を推進する
施策	01 ごみを減らし、リサイクルを進める
事業実施期間	昭和62年度 ～ 平成33年度
事業区分	⑤市施策事業（経常）
地区別	市内全域
関連根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律

【事業概要】

現状と課題	第2期埋立処分場の建設工事を平成11年度より開始。1期は平成30年度、2期は平成39年度に完成予定
目的 ※対象（誰・何）を どのような状態 にしたいのか	廃棄物の最終処分
対象 ※誰、何に対して	近畿圏の各自治体（近畿2府4県のうち、168市町村）
事業内容 ※目的達成のため の手段・手法	法「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく最終処分場の確保

【コスト】

	平成26年度（決算見込）
事業費合計	179 千円
財源内訳	国庫支出金 千円
	県支出金 千円
	地方債 千円
	その他特財 千円
	一般財源 179 千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	04 衛生費
項	02 清掃費
目	04 クリーンセンター費
細目	035 大阪湾広域臨海環境整備協議会 負担金事業

【コスト推移】

	平成26年度（決算見込）	平成25年度（決算）	平成24年度（決算）
事業費合計	179 千円	743 千円	4,832 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性 ・効率性の視点 をもとに総合的 に判断した評価	☐ 拡充 ☒ 維持 ☐ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	加古川市単独で最終処分場を設置することは困難であることから、これまでどおり「大阪湾フェニックス計画」に頼らざるをえない状況である。

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事務事業名	大阪湾広域臨海環境整備協議会 負担金事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	クリーンセンター

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対 象 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
フェニックス事業への 一般廃棄物搬入量	トン	4,591	8,762	7,248

【事業実績】

活 動 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
フェニックス事業への 一般廃棄物搬入量	トン	4,591	8,762	7,248
活 動 指 標 分 析 結 果	前年度実績を基にフェニックスへ廃棄物搬入量を申請している。			

【事業成果】

成 果 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目 標 値
フェニックス事業への 一般廃棄物搬入量（実 績）	トン	4,591	9,617	7,248	平成27 年度	5,300
成 果 指 標 分 析 結 果	申請量以内の廃棄物を搬入している。搬入料金はあらかじめ設定されているため、単位当りのコストは変化しない。					

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事 務 事 業 名	竜ヶ池灰埋立最終処分事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	クリーンセンター

【基本情報】

基 本 目 標	0 3 うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政 策	0 2 資源の循環と環境美化を推進する
施 策	0 1 ごみを減らし、リサイクルを進める
事業実施期間	昭和55年度 ～ 平成33年度
事業区分	⑥市施策事業（臨時）
地 区 別	市内全域
関連根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律

【事業概要】

現 状 と 課 題	クリーンセンターで発生する廃棄物の内スラグを処理するための施設だが、平成26年度より焼却灰のセメント化を行っているので、平成26年度は搬入していない。
目 的 ※対象（誰・何）を どのような状態 にしたいのか	計画的な焼却残渣の埋立処理
対 象 ※誰、何に対して	竜ヶ池灰埋立最終処分場
事 業 内 容 ※目的達成のため の手段・手法	クリーンセンターで発生したスラグの埋立及び整地

【コスト】

	平成26年度（決算見込）
事業費合計	0 千円
財 源 内 訳	国庫支出金 千円
	県支出金 千円
	地方債 千円
	その他特財 千円
	一般財源 0 千円

【会計】

会 計	0 1 一般会計
款	0 4 衛生費
項	0 2 清掃費
目	0 4 クリーンセンター費
細 目	0 2 0 竜ヶ池処理場維持補修事業

【コスト推移】

	平成26年度（決算見込）	平成25年度（決算）	平成24年度（決算）
事業費合計	0 千円	2,525 千円	1,654 千円

【総合評価】

総 合 評 価 ※妥当性・有効性 ・効率性の視点 をもとに総合的 に判断した評価	☐ 拡充 ☐ 維持 ☒ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	スラグの埋立は25年度で終了。26年度以降は、セメント原料化へ移行の為、現時点では埋立計画はない。

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事 務 事 業 名	竜ヶ池灰埋立最終処分事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	クリーンセンター

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対 象 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
スラグの搬入量	トン	0	1,000	1,000

【事業実績】

活 動 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
スラグ搬入量	トン	0	1,000	1,000
活 動 指 標 分 析 結 果	ほとんど搬入していない。			

【事業成果】

成 果 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目 標 値
スラグ搬入量（実績）	トン	0	1,293	2,628	平成27年度	0
成 果 指 標 分 析 結 果	26年度は溶融飛灰のセメント原料化を4月より実施しているため、ほとんど搬入していない。					

加古川市事務事業評価シート（平成26年度実施事業）

事務事業名	資源化センター管理運営事業	部局名	環境部
		課（室）名	クリーンセンター

【基本情報】

基本目標	03 うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政策	02 資源の循環と環境美化を推進する
施策	01 ごみを減らし、リサイクルを進める
事業実施期間	平成24年度 ～ 永年
事業区分	⑥市施策事業（臨時）
地区別	市内全域
関連根拠法令等	

【事業概要】

現状と課題	「大量生産・大量消費・大量廃棄の社会」から「循環型社会」へのライフスタイルの見直しが求められている。
目的 ※対象（誰・何）を どのような状態 にしたいのか	市民及び事業者の資源のリサイクルに対する意識を高める。
対象 ※誰、何に対して	再資源化できる廃棄物を処分しようとしている市民及び事業者
事業内容 ※目的達成のため の手段・手法	再資源化できる紙ごみを無料で受け入れ、再生業者に売却すると共に、市内から回収された蛍光灯・乾電池を処分業者に搬出する。

【コスト】

	平成26年度（決算見込）
事業費合計	4,554 千円
財源内訳	国庫支出金 千円
	県支出金 千円
	地方債 千円
	その他特財 千円
	一般財源 4,554 千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	04 衛生費
項	02 清掃費
目	04 クリーンセンター費
細目	055 資源化センター管理運営事業

【コスト推移】

	平成26年度（決算見込）	平成25年度（決算）	平成24年度（決算）
事業費合計	4,554 千円	4,659 千円	1,503 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性 ・効率性の視点 をもとに総合的 に判断した評価	☐ 拡充 ☒ 維持 ☐ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	事業開始3年目で受入量は前年度より増えたが、さらなるPRが必要である。

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事務事業名	資源化センター管理運営事業	部局名	環境部
		課(室)名	クリーンセンター

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対象指標名	単位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
全市民（団体・法人等を含む）	人	268,000	268,000	268,000

【事業実績】

活動指標名	単位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
施設利用者数	人	1,000	1,000	1,000
紙ごみ受入量	k g	20,000	20,000	100,000
活動指標分析結果	事業開始年度により、市の紙資源回収量から積算したため、予測値が高くなっている。			

【事業成果】

成果指標名	単位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目標値
施設利用人数（実績）	人	554	444	373	平成27年度	1,200
紙ごみ受入量（実績）	k g	32,230	26,200	21,920	平成27年度	30,000
成果指標分析結果	紙の受け入れについては、目標を達成したが、さらに受入量を増やしたい。					

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事 務 事 業 名	リサイクルセンター管理運営事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	リサイクルセンター

【基本情報】

基 本 目 標	0 3 うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政 策	0 2 資源の循環と環境美化を推進する
施 策	0 1 ごみを減らし、リサイクルを進める
事 業 実 施 期 間	～ 永年
事 業 区 分	①一般事務経費事業
地 区 別	両荘地区
関 連 根 拠 法 令 等	加古川市廃棄物の処理及び清掃に関する条例

【事業概要】

現 状 と 課 題	技能労務職員の退職者不補充施策により、職員数が減少した。
目 的 ※対象(誰・何)を どのような状態 にしたいのか	不燃ごみ・粗大ごみを適正処理する。
対 象 ※誰、何に対して	リサイクルセンター
事 業 内 容 ※目的達成のため の手段・手法	直営及び民間委託により管理・運営する。

【コスト】

	平成26年度（決算見込）
事 業 費 合 計	98,688 千円
財 源 内 訳	国 庫 支 出 金 千円
	県 支 出 金 千円
	地 方 債 千円
	そ の 他 特 財 千円
	一 般 財 源 98,688 千円

【会計】

会 計	0 1 一般会計
款	0 4 衛生費
項	0 2 清掃費
目	0 3 リサイクルセンター費
細 目	0 0 5 リサイクルセンター管理事業

【コスト推移】

	平成26年度（決算見込）	平成25年度（決算）	平成24年度（決算）
事 業 費 合 計	98,688 千円	101,244 千円	92,884 千円

【総合評価】

総 合 評 価 ※妥当性・有効性 ・効率性の視点 をもとに総合的 に判断した評価	☐ 拡充 ☐ 維持 ☐ 縮小 ☒ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	市としての義務的事業であるため、委託業務等の拡大等によりコスト削減を図りつつ、今後も維持していく必要がある。

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事務事業名	リサイクルセンター管理運営事業	部局名	環境部
		課（室）名	リサイクルセンター

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対 象 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度

【事業実績】

活 動 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
活 動 指 標 分 析 結 果				

【事業成果】

成 果 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目 標 値
成 果 指 標 分 析 結 果						

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事 務 事 業 名	リサイクルセンター維持補修事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	リサイクルセンター

【基本情報】

基 本 目 標	0 3 うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政 策	0 2 資源の循環と環境美化を推進する
施 策	0 1 ごみを減らし、リサイクルを進める
事 業 実 施 期 間	～ 永年
事 業 区 分	②施設維持補修事業
地 区 別	両荘地区
関 連 根 拠 法 令 等	加古川市廃棄物の処理及び清掃に関する条例、労働安全衛生法、クレーン等安全規則、計量法

【事業概要】

現 状 と 課 題	施設老朽化と共に故障等が増加し、点検による指摘も増えてきている。
目 的 ※対象(誰・何)を どのような状態 にしたいのか	施設の安全運転・延命化
対 象 ※誰、何に対して	ごみ処理の電気・機械設備
事 業 内 容 ※目的達成のため の手段・手法	月次点検・年次点検を行う。

【コスト】

	平成26年度（決算見込）
事 業 費 合 計	89,034 千円
財 源 内 訳	国 庫 支 出 金 千円
	県 支 出 金 千円
	地 方 債 千円
	そ の 他 特 財 38,901 千円
	一 般 財 源 50,133 千円

【会計】

会 計	0 1 一般会計
款	0 4 衛生費
項	0 2 清掃費
目	0 3 リサイクルセンター費
細 目	0 1 0 リサイクルセンター維持補修事業

【コスト推移】

	平成26年度（決算見込）	平成25年度（決算）	平成24年度（決算）
事 業 費 合 計	89,034 千円	105,403 千円	119,103 千円

【総合評価】

総 合 評 価 ※妥当性・有効性 ・効率性の視点 をもとに総合的 に判断した評価	☐ 拡充 ☒ 維持 ☐ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	市としての義務的事業であるため、コスト削減を図りつつ今後も継続して事業を行っていく必要がある。

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事 務 事 業 名	リサイクルセンター維持補修事業	部 局 名	環境部
		課（室）名	リサイクルセンター

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、以下の項目は空白です。

【対象】

対 象 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度

【事業実績】

活 動 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
活 動 指 標 分 析 結 果				

【事業成果】

成 果 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目 標 値
成 果 指 標 分 析 結 果						

加古川市事務事業評価シート（平成26年度実施事業）

事 務 事 業 名	投 棄 場 管 理 事 業	部 局 名	環 境 部
		課（室）名	リサイクルセンター

【基本情報】

基 本 目 標	0 3 うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして
政 策	0 2 資源の循環と環境美化を推進する
施 策	0 1 ごみを減らし、リサイクルを進める
事 業 実 施 期 間	～ 永年
事 業 区 分	②施設維持補修事業
地 区 別	両荘地区
関 連 根 拠 法 令 等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、加古川市廃棄物の処理及び清掃に関する条例

【事業概要】

現 状 と 課 題	市内に処分場のごみ受入残余量が少ない。
目 的 ※対象(誰・何)を どのような状態 にしたいのか	磐東第2 処分場の延命化
対 象 ※誰、何に対して	磐東第2 処分場
事 業 内 容 ※目的達成のため の手段・手法	掘り起こし再生処理を実施し、可燃物はクリーンセンターへ、破砕必要なものはリサイクルセンターへ、不燃物はフェニックスへ搬出

【コスト】

	平成26年度（決算見込）
事 業 費 合 計	67,749 千円
財 源 内 訳	国 庫 支 出 金 千円
	県 支 出 金 千円
	地 方 債 26,100 千円
	そ の 他 特 財 千円
	一 般 財 源 41,649 千円

【会計】

会 計	0 1 一般会計
款	0 4 衛生費
項	0 2 清掃費
目	0 3 リサイクルセンター費
細 目	0 1 5 投棄場管理事業

【コスト推移】

	平成26年度（決算見込）	平成25年度（決算）	平成24年度（決算）
事 業 費 合 計	67,749 千円	53,682 千円	36,435 千円

【総合評価】

総 合 評 価 ※妥当性・有効性 ・効率性の視点 をもとに総合的 に判断した評価	☐ 拡充 ☒ 維持 ☐ 縮小 ☐ 改善 ☐ 統合 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 完了
	市としての義務的事業であるため、業務委託、車両レンタル等の業務の競争性を確保し、コスト削減を図りつつ、今後も維持していく必要がある。

加古川市事務事業評価シート〈平成26年度実施事業〉

事 務 事 業 名	投 棄 場 管 理 事 業	部 局 名	環 境 部
		課（室）名	リサイクルセンター

※政策的でない一般的事務経費、施設の維持補修経費または義務的施策事業については、
以下の項目は空白です。

【対象】

対 象 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度

【事業実績】

活 動 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度
活 動 指 標 分 析 結 果				

【事業成果】

成 果 指 標 名	単 位	平成26年度	平成25年度	平成24年度	目標年度	目 標 値
成 果 指 標 分 析 結 果						